

# 特定健康診査・特定保健指導実績報告書

平成21年度版

(平成20年度実績)

東京都北区

区民部国保年金課



## 目 次

### 第 1 章 計画と目標

1	特定健診等実施計画	1 頁
2	目標設定	1 頁
3	特定健診・特定保健指導の目標率	1 頁
4	実施機関	1 頁
5	案内方法等	2 頁
6	事業の所管	2 頁
7	人口・被保険者推計	2 頁

### 第 2 章 特定健診・特定保健指導の実施結果

1	特定健診の実施結果	
①-1	受診率	4 頁
①-2	男女別・年齢別の受診率	5 頁
②-1	受診結果	6 頁
②-2	男性の受診結果	7 頁
②-3	女性の受診結果	7 頁
②-4	年齢別受診結果	8 頁
③	服薬の状況	9 頁
④	該当項目別の状況	10 頁
2	特定保健指導の実施結果	11 頁
3	まとめ	13 頁

# 第1章 計画と目標

## 1 特定健診等実施計画

国は、これまでの老人保健法に基づく基本健康診査（以下「基本健診」という。）を廃止し、国民医療費の中で大きなウエイトを占める糖尿病等の生活習慣病を予防するため、内臓脂肪症候群（以下「メタボリックシンドローム」という。）に重点をおいた「特定健康診査」（以下「特定健診」という。）、「特定保健指導」の実施を各医療保険者に義務づけた。

これに基づき、平成20年3月、北区は「東京都北区国民健康保険特定健診等実施計画」を策定した。

計画の期間は、5年を1期とし、5年ごとに見直しを行う。第1期は平成20年度から平成24年度までとしている。

## 2 目標設定

国が定めた目標値によれば、平成24年度における国民健康保険被保険者の特定健診受診率を65%、特定保健指導実施率を45%とし、メタボリックシンドロームの該当者・予備群を平成20年度に比べ10%減少させることとしている。

## 3 特定健診・特定保健指導の目標率

北区における年度ごとの目標率は、国が「特定健康診査等基本指針」で示した目標率を基準に下表のとおりとした。

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
特定健診受診目標率	45%	50%	55%	60%	65%
特定保健指導実施目標率	10%	15%	25%	35%	45%
内臓脂肪症候群の該当者・予備群の減少率	—	—	—	—	10%減少

## 4 実施機関

平成20年度の特定健診及び特定保健指導は、被保険者が身近な場所で気軽に受けることができ、かつ保険者の事務の効率が図れるように北区医師会に委託した。

### (1) 特定健診の委託先と実施場所

①委託先 : 北区医師会

- ②実施場所 : 北区医師会に加入する各医療機関
- ③実施時期 : 6月～9月
- ④特定健診の自己負担金

健診費用は医療費に自己負担があるのと同様に、本来は受診者が一部を負担することが原則であるが、これまで基本健診を無料で実施してきたことなどにより被保険者の自己負担金を無料とした。

## (2) 特定保健指導の委託先と実施場所

- ①委託先 : 北区医師会
- ②実施場所 : 北区医師会に加入する各医療機関
- ③実施時期 : 10月～12月に初回面接を実施。その後、約6か月にわたり指導を行う。
- ④特定保健指導の自己負担金

国は特定保健指導についても自己負担金を求めることができるとしているが、指導を受けやすいように利用者の自己負担金を無料とした。

## 5 案内方法等

平成20年度は、北区ニュース及びホームページに掲載し、特定健診受診券、特定保健指導利用券を個別に送付した。

## 6 事業の所管

本事業は、国民健康保険を所管する区民部国保年金課の事業であるが、区民にわかりやすく効率的に事業を行う必要から、平成20年度の特定健診は基本健診を担当していた「健康いきがい課」に執行委任した。

## 7 人口・被保険者推計

### (1) 北区の人口推計

単位(人)

	20年4月	21年4月	22年4月	23年4月	24年4月
住基登録者	317,949	319,470	318,597	318,155	319,026
外国人登録者	15,021	15,743	15,862	16,322	16,723
計	332,970	335,213	334,459	334,477	335,749

(2) 北区国保の被保険者の推計（40～74歳）

単位（人）

	20年4月	21年4月	22年4月	23年4月	24年4月
男	32,818	32,566	32,666	32,163	31,705
女	35,904	35,895	35,261	34,221	33,263
計	68,722	68,461	67,927	66,384	64,968

(3) 平成24年度までの特定健診受診者及び特定保健指導実施者数見込み

単位（人）

	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
特定健診受診者数	32,500	35,700	37,300	39,800	42,200
特定保健指導実施者数	720	1,200	2,300	3,400	4,700

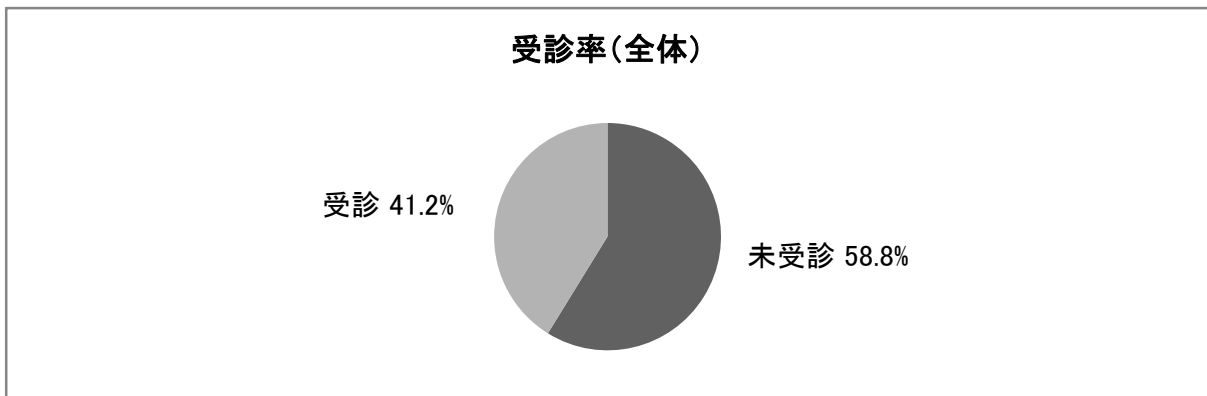
## 第2章 特定健診・特定保健指導の実施結果

### 1 特定健診の実施結果

#### ①-1 受診率

北区の受診率は41.2%であった。

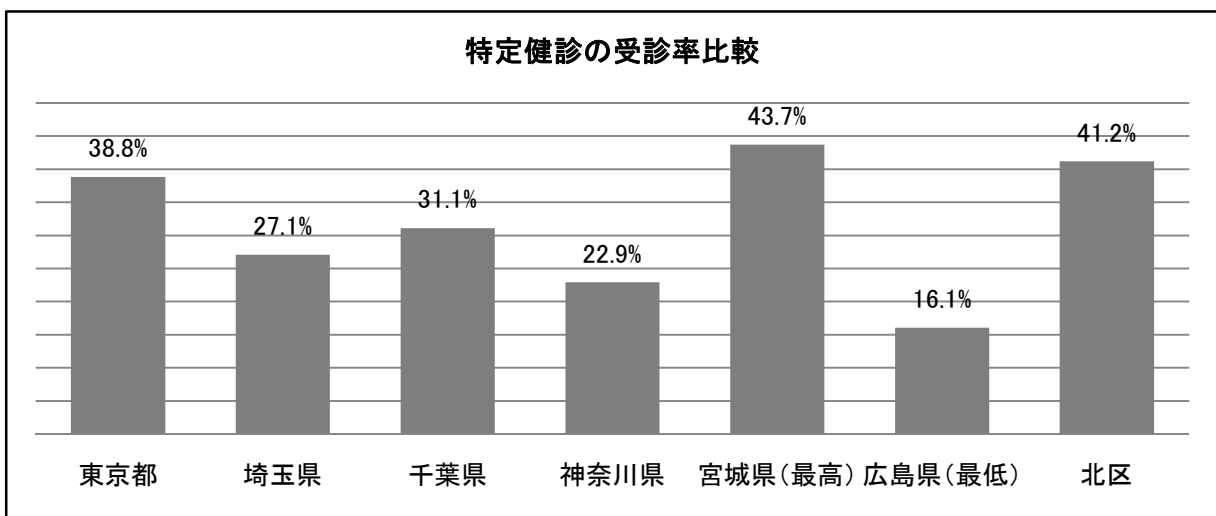
健診対象者数(人)			受診者数(人)			受診率		
男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
32,818	35,904	68,722	10,746	17,550	28,296	32.7%	48.9%	41.2%



北区の受診率は全国市町村国保の平均受診率28.3%、東京都の平均受診率38.8%、をいずれも上回ったが、目標値の45%は達成できなかった。

東京都	38.8%	埼玉県	27.1%	千葉県	31.1%	神奈川県	22.9%
宮城県(最高)	43.7%	広島県(最低)	16.1%				

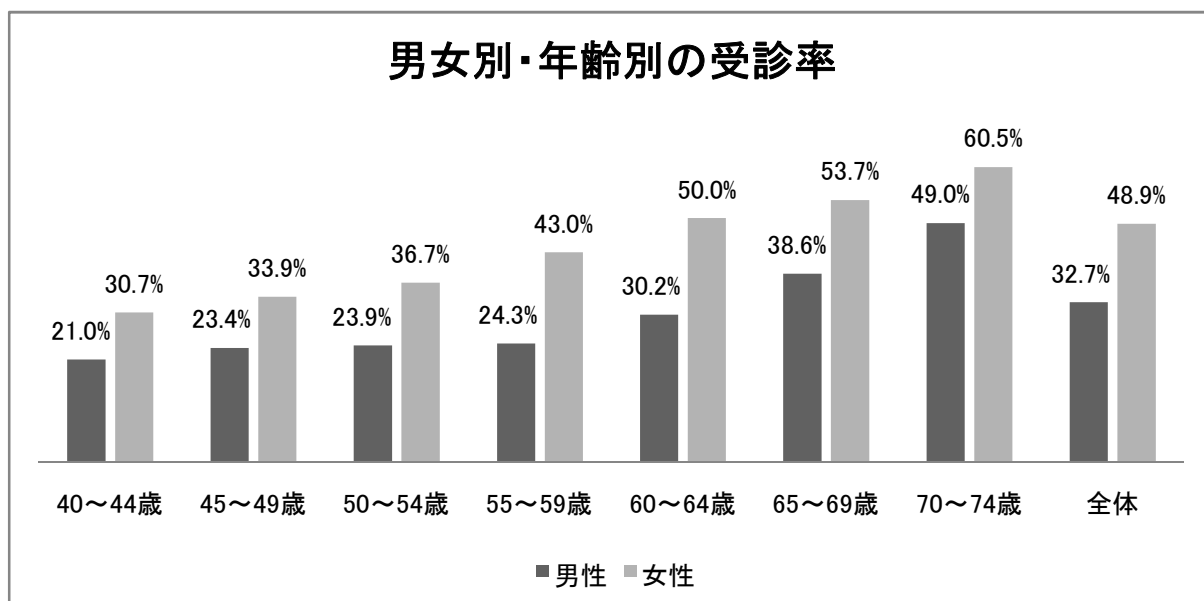
(平均受診率は、国民健康保険中央会・21.7.22 発表のもの)



## ①-2 男女別・年齢別の受診率

全ての年代において女性の受診率が高い。また、年齢が上がるにつれて男女ともに受診率が上がる。

年齢	健診対象者数(人)			受診者数(人)			受診率		
	男性	女性	計	男性	女性	計	男性	女性	計
40～44歳	3,465	2,859	6,324	728	877	1,605	21.0%	30.7%	25.4%
45～49歳	2,964	2,679	5,643	693	907	1,600	23.4%	33.9%	28.4%
50～54歳	2,940	2,675	5,615	702	983	1,685	23.9%	36.7%	30.0%
55～59歳	4,438	4,119	8,557	1,077	1,772	2,849	24.3%	43.0%	33.3%
60～64歳	5,492	6,484	11,976	1,658	3,244	4,902	30.2%	50.0%	40.9%
65～69歳	7,076	8,425	15,501	2,730	4,526	7,256	38.6%	53.7%	46.8%
70～74歳	6,443	8,662	15,105	3,158	5,241	8,399	49.0%	60.5%	55.6%
計	32,818	35,903	68,721	10,746	17,550	28,296	32.7%	48.9%	41.2%

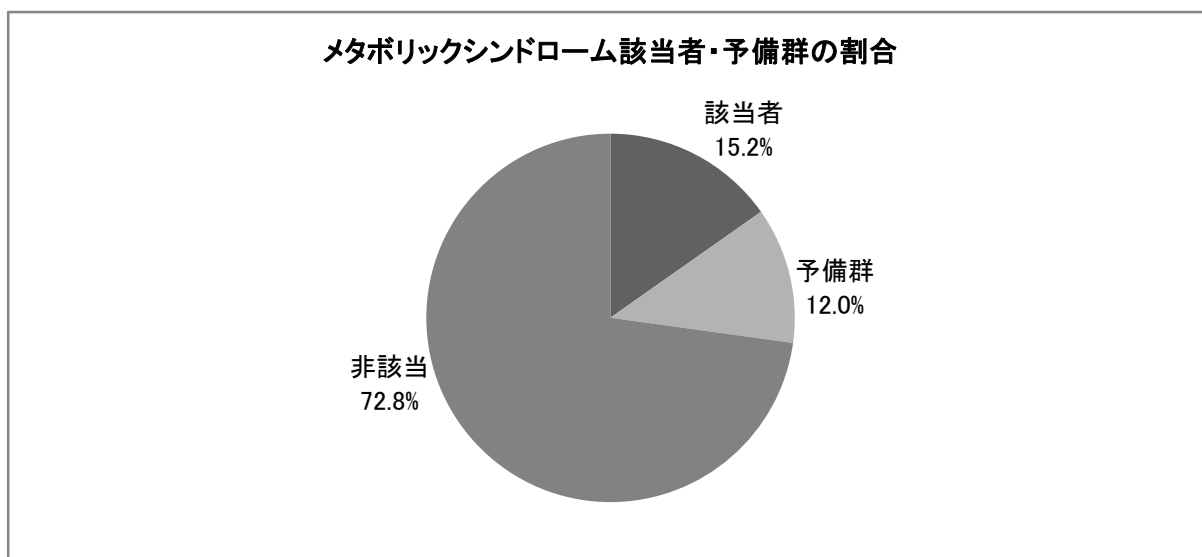


## ②-1 受診結果

特定健診の結果、受診者に占めるメタボリックシンドローム該当者及びその予備群の割合は27%であった。

非該当の中には、血液検査ができなかった等の理由により判定不能の者を含む。

該当者	予備群	非該当	受診者数計	割合		
				該当者	予備群	非該当
4,306 人	3,388 人	20,602 人	28,296 人	15.2%	12.0%	72.8%



### <メタボリックシンドローム判定基準>

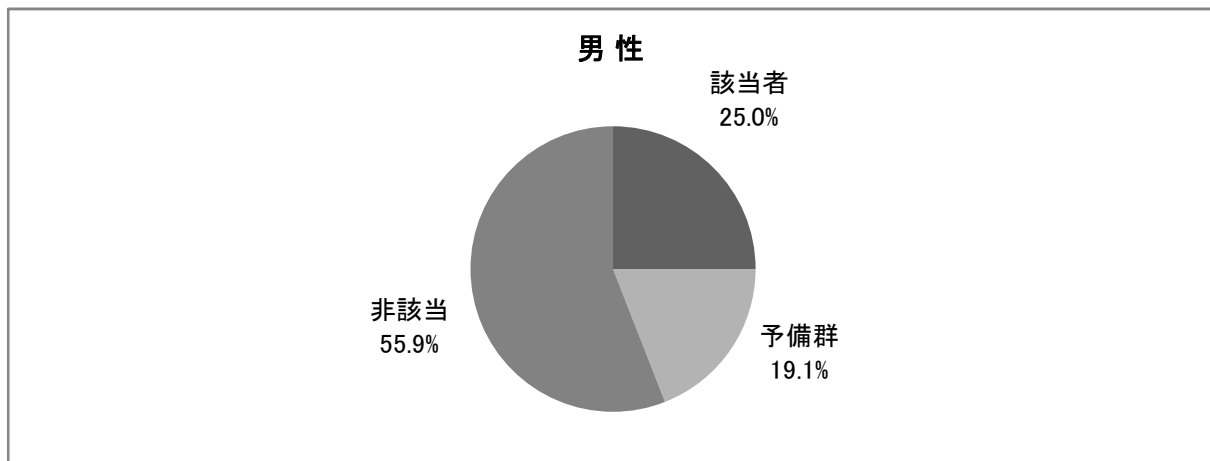
健診区分		検査項目	判定値	メタボリックシンドローム判定			
A	計測	腹囲	男 85 以上	該当者	予備群		
			女 90 以上				
B	血圧	収縮期	130 以上				
		拡張期	又は 85 以上				
		又は、高血圧の服薬中					
C	脂質代謝	中性脂肪	150 以上	Aに該当し、 かつB～Dのうち 2項目以上に 該当	Aに該当し、 かつB～Dのうち 1項目に 該当		
		HDL	又は 40 未満				
		コレステロール	又は、高脂血症の服薬中				
D	糖代謝	空腹時血糖	110 以上				
		ヘモグロビンA1c	又は 5.5 以上				
		又は、糖尿病の服薬中					



## ②-2 男性の受診結果

男性受診者のうち、44%がメタボリックシンドローム該当者及びその予備群であった。約2人に1人が該当する男性の平均的な結果（「平成20年国民健康・栄養調査結果」より）である。

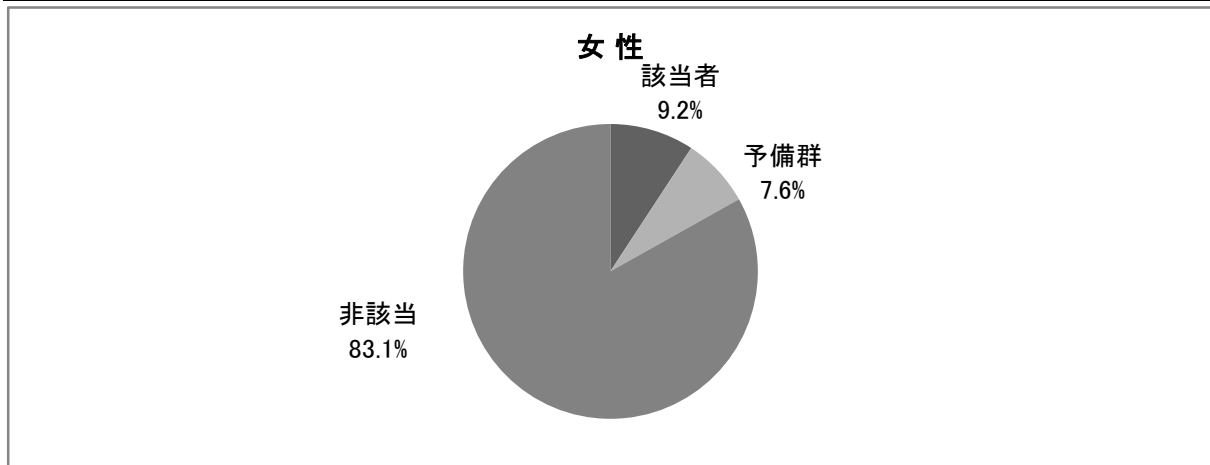
該当者	予備群	非該当	男性受診者計	割合		
				該当者	予備群	非該当
2,685 人	2,049 人	6,012 人	10,746 人	25.0%	19.1%	55.9%



## ②-3 女性の受診結果

女性受診者のうち、約17%がメタボリックシンドローム該当者及びその予備群であった。約5人に1人が該当する女性の平均的な結果（「平成20年国民健康・栄養調査結果」より）である。

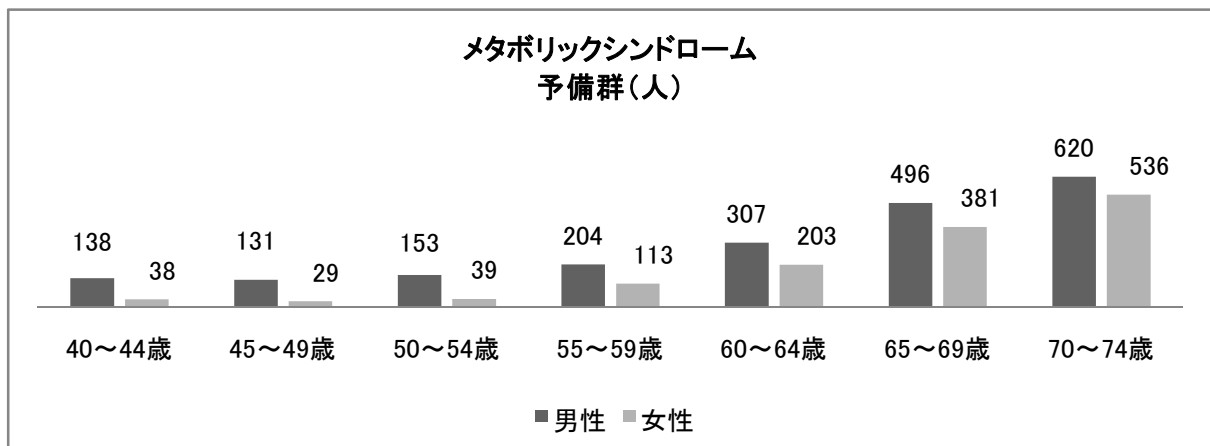
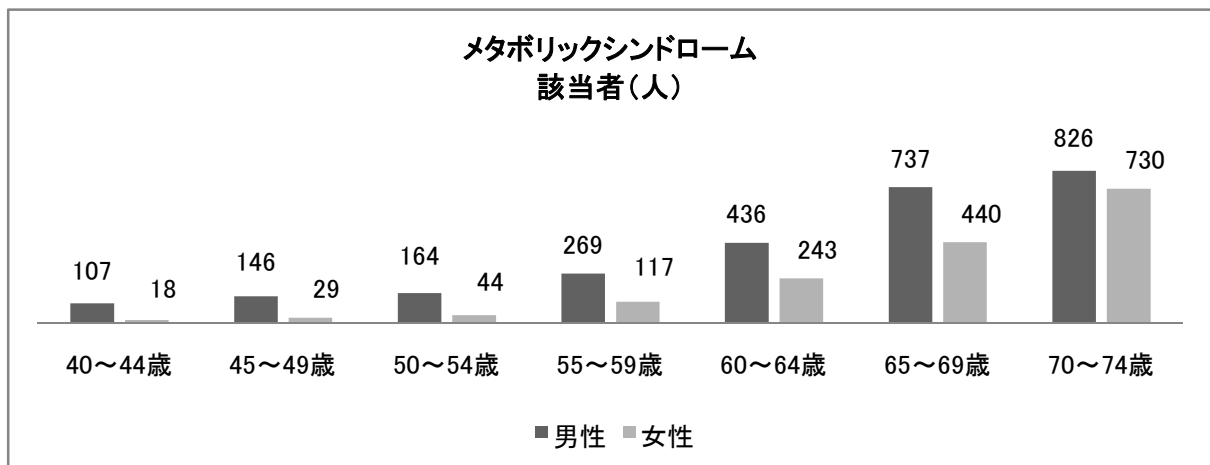
該当者	予備群	非該当	女性受診者計	割合		
				該当者	予備群	非該当
1,621 人	1,339 人	14,590 人	17,550 人	9.2%	7.6%	83.1%



## ②-4 年齢別受診結果

特定健診の受診率は女性が男性よりも高いが（P5 参照）、メタボリックシンドローム該当者及びその予備群の人数は、全ての年代において男性が女性を上回っている。

年齢	メタボリックシンドローム						割合(分母は受診者数)					
	該当者(人)		予備群(人)		該当者+予備群(人)		該当者		予備群		該当者+予備群	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
40～44歳	107	18	138	38	245	56	14.7%	2.1%	19.0%	4.3%	33.7%	6.4%
45～49歳	146	29	131	29	277	58	21.1%	3.2%	18.9%	3.2%	40.0%	6.4%
50～54歳	164	44	153	39	317	83	23.4%	4.5%	21.8%	4.0%	45.2%	8.4%
55～59歳	269	117	204	113	473	230	25.0%	6.6%	18.9%	6.4%	43.9%	13.0%
60～64歳	436	243	307	203	743	446	26.3%	7.5%	18.5%	6.3%	44.8%	13.7%
65～69歳	737	440	496	381	1,233	821	27.0%	9.7%	18.2%	8.4%	45.2%	18.1%
70～74歳	826	730	620	536	1,446	1,266	26.2%	13.9%	19.6%	10.2%	45.8%	24.2%

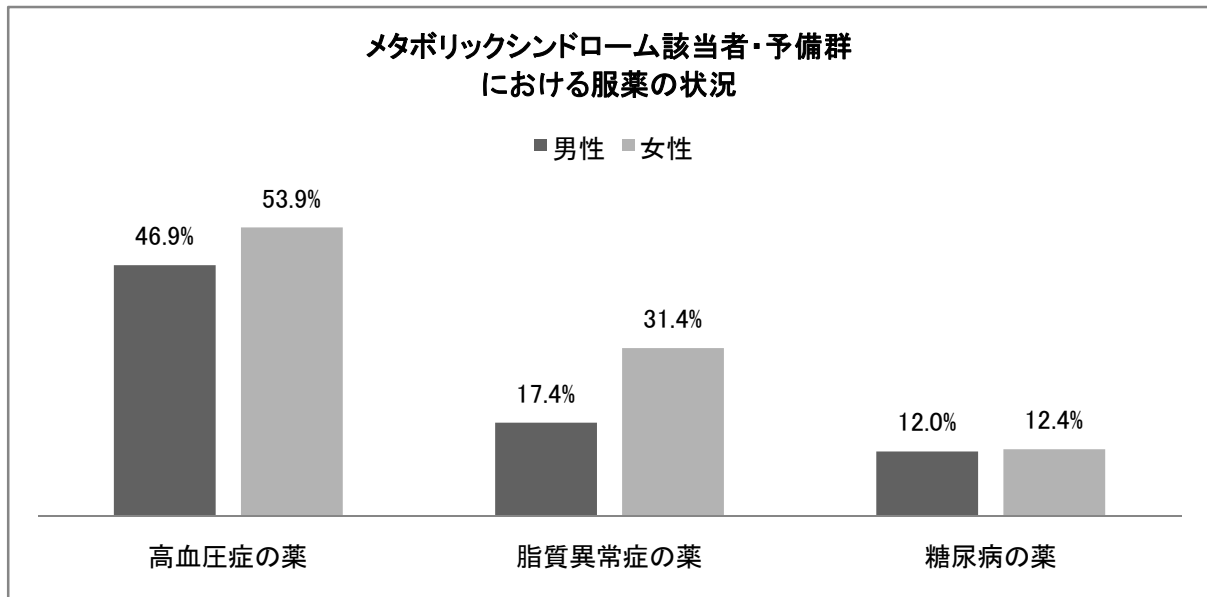


### ③服薬の状況

メタボリックシンドローム該当者及びその予備群のうち、服薬の状況は下記のとおりである。

- 男女ともに約半数が高血圧症の薬を服用している。
- 脂質異常症の薬を服用している人数の割合は、女性が男性の約2倍となっている。
- 糖尿病の薬を服用している人数の割合について、男女差はない。

服薬の種類	服薬者		割合 (分母は男女別のメタボリックシンドローム該当者 +予備群の合計数)	
	男性	女性	男性	女性
高血圧症の薬	2,219 人	1,596 人	46.9%	53.9%
脂質異常症の薬	823 人	928 人	17.4%	31.4%
糖尿病の薬	568 人	368 人	12.0%	12.4%



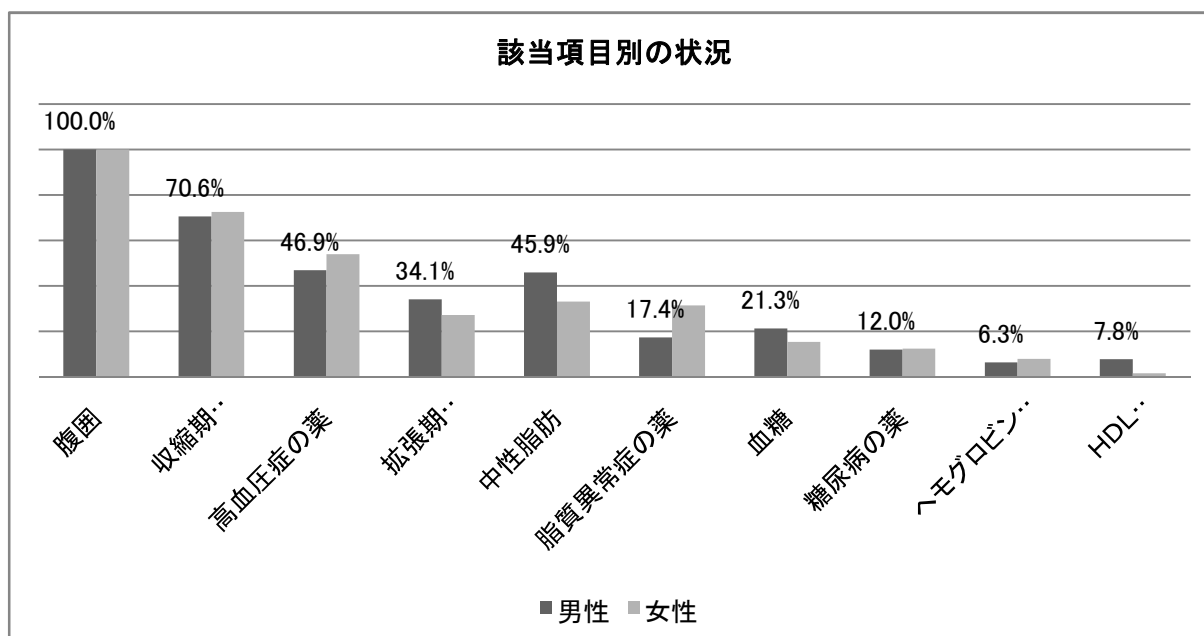
#### ④該当項目別の状況

メタボリックシンドローム該当者及びその予備群のうち、各項目に該当した人数と割合は、次のとおりである。

血圧に関する事項に該当する者が多かった。

	腹囲	収縮期 血圧	高血圧 症の薬	拡張期 血圧	中性 脂肪	脂質異 常症の 薬	血糖	糖尿病 の薬	ヘモグ ロビン A1c	HDL コレステ ロール
	男 85 以上 女 90 以上	130 以上	服薬中	85 以上	150 以上	服薬中	110 以上	服薬中	5.5 以上	40 未満
男性 (人)	4,734	3,342	2,219	1,616	2,171	823	1,010	568	300	368
女性 (人)	2,960	2,145	1,596	804	979	928	454	368	232	44

	割合(分母は男女別のメタボリックシンドローム該当者+予備群の合計数)									
	腹囲	収縮期 血圧	高血圧 症の薬	拡張期 血圧	中性 脂肪	脂質異 常症の 薬	血糖	糖尿病 の薬	ヘモグ ロビン A1c	HDL コレステ ロール
男性	100%	70.6%	46.9%	34.1%	45.9%	17.4%	21.3%	12.0%	6.3%	7.8%
女性	100%	72.5%	53.9%	27.2%	33.1%	31.4%	15.3%	12.4%	7.8%	1.5%



## 2 特定保健指導の実施結果

平成20年度は、特定健診実施時点において特定保健指導を希望すると回答した者に利用券を交付した。このため、対象者に対する実施率は7%と低かった。

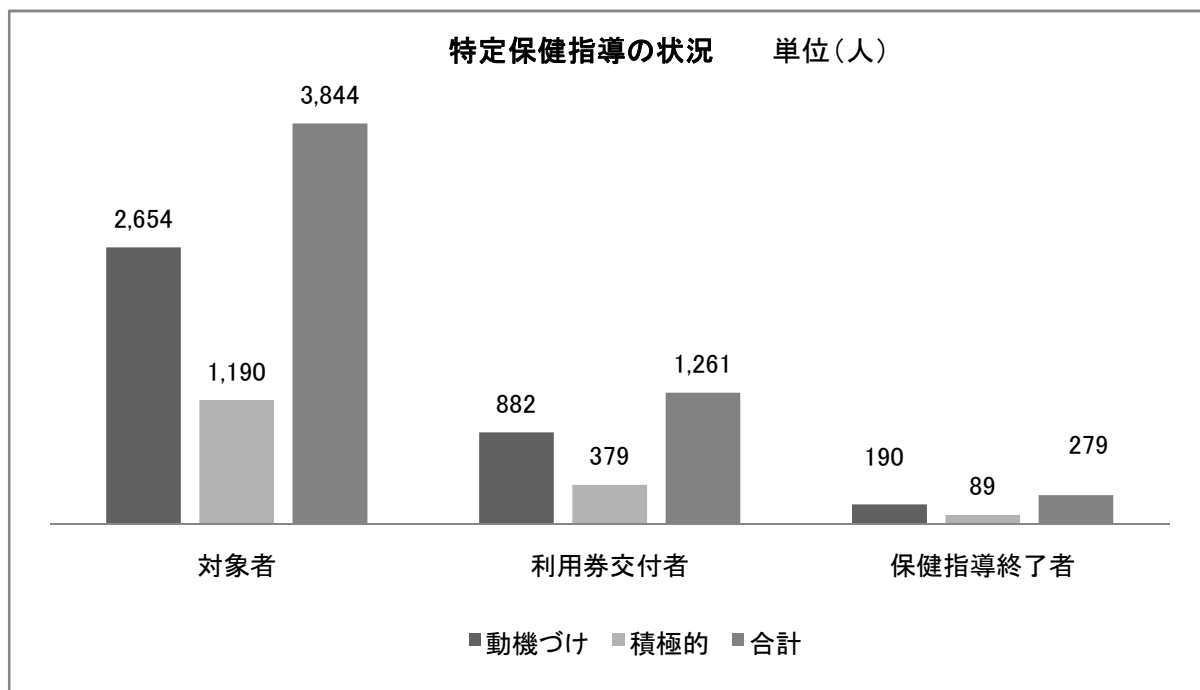
また、特定保健指導を希望する者に利用券を交付したものの、辞退者が多く、実際に特定保健指導を利用したのは22%と低調であった。特定保健指導の日程調整がつかなかった、健診結果について医師が丁寧な説明をしているのでそれで満足した、実際自分に利用券が届いてみると気が変わった等の理由が挙げられる。

平成21年度以降は、特定保健指導を希望するしないにかかわらず利用券を交付する。

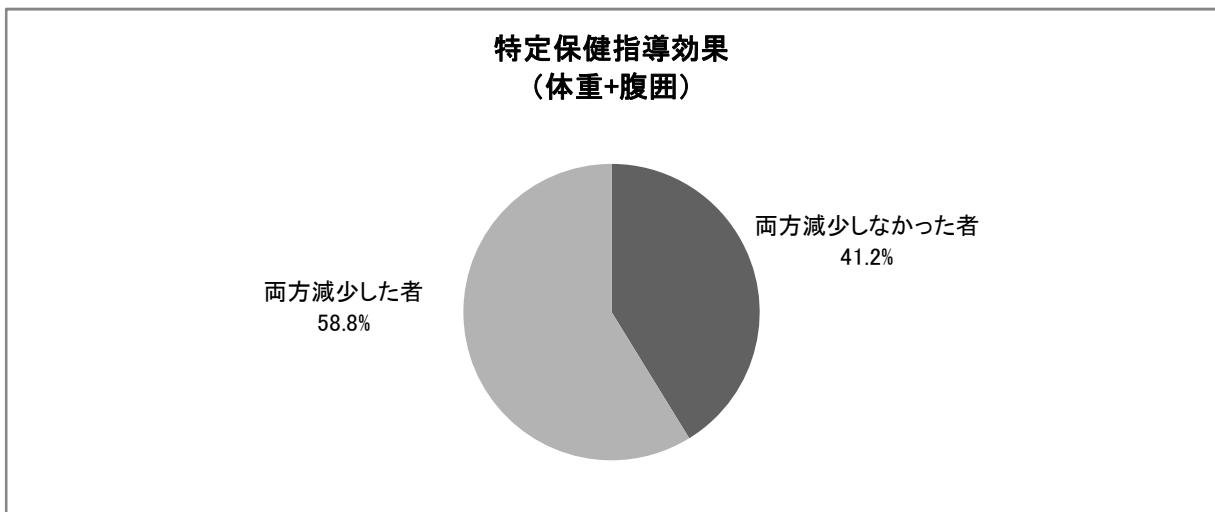
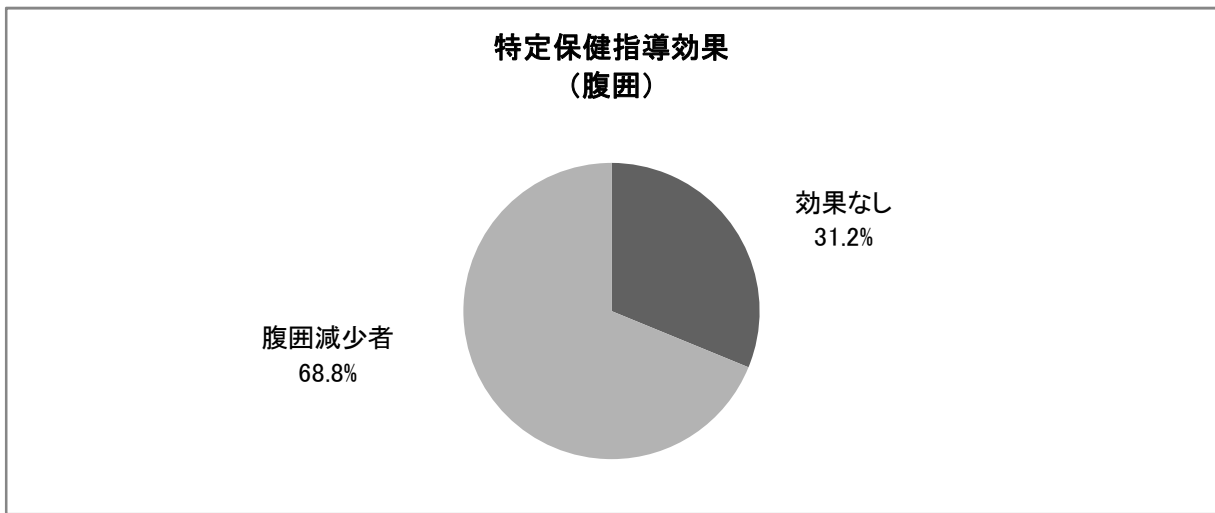
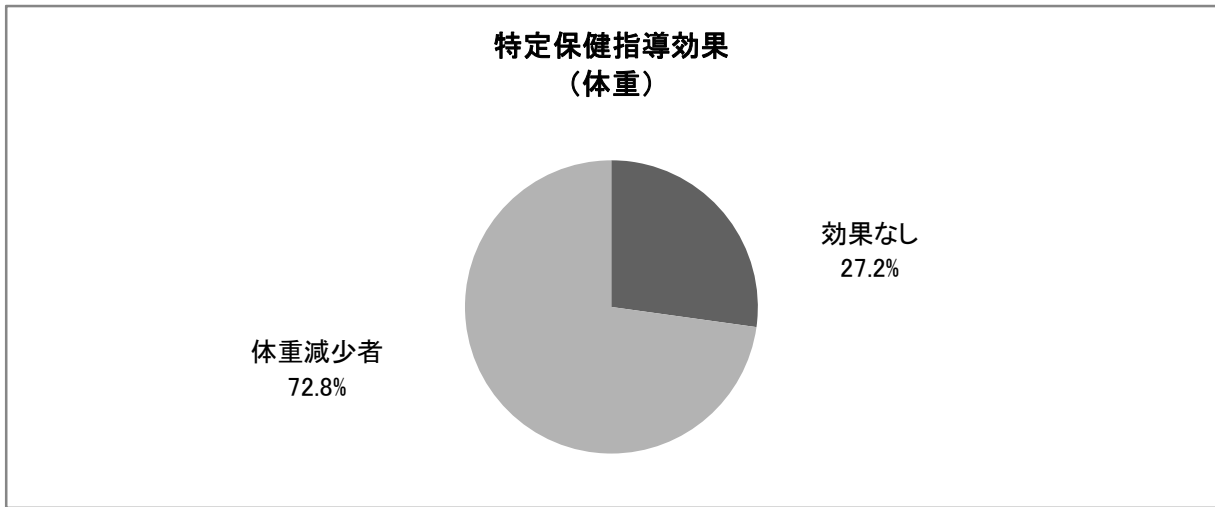
特定保健指導の効果については、特定保健指導終了者の約70%に体重または腹囲減少の効果が見られた。体重・腹囲ともに減少した者は60%近くにのぼった。

なお、最も体重が減った者は体重が13kg減、最も腹囲が減った者は腹囲が13cm減であった。

支援区分	対象者 (a)	利用券交付者 (b)	保健指導終了者 (c)	利用率 (c/b)	実施率 (c/a)
動機づけ	2,654 人	882 人	190 人	21.5%	7.2%
積極的	1,190 人	379 人	89 人	23.5%	7.5%
合 計	3,844 人	1,261 人	279 人	22.1%	7.3%



特定保健指導終了者	体重が減少した者		腹囲が減少した者		両方減少した者	
279 人	203 人	72.8%	192 人	68.8%	164 人	58.8%



### 3 まとめ

平成 20 年度の特定健診の結果、男性は約 2 人に 1 人、女性は約 5 人に 1 人がメタボリックシンドロームの該当者又はその予備群であった。

また、特定保健指導の実施により、約 7 割の利用者に体重や腹囲の減少が見られた。

一方、特定健診受診者や特定保健指導利用者の人数は、当初の目標を下回った。特定保健指導の効果は大きいとわかっているにもかかわらず、それが伝わらなくては受診者や利用者の増加は見込めない。

今後は、下記の対策を講じて多くの受診者や利用者の増加を目指していく。

- 未受診者や未利用者へのアンケートを実施し、その原因を把握することにより阻害要因の解消に努める。
- イベントの実施、メジャー等グッズの提供など、メタボリックシンドロームへの関心を高める活動を強化する。
- 特定保健指導実施医療機関数を増やし、利用者の利便性を高める。
- 特定健診実施前に、電話等による健診日程のお知らせなどのPR活動を行い、受診対象者に向けて広く周知する。
- レセプトの活用により、医療費の削減に効果的な特定保健指導対象者を選定する。
- 受診者が健診結果説明を受けてから特定保健指導を利用するまでの期間短縮に努め、特定保健指導の対象となる受診者の健康に対する意識や特定保健指導への参加意欲が時間の経過により薄らぐのを防ぐ。